



2008年(平成20年) 8月23日 土曜日

発行所:十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話(代表)0155-22-2121



重りを付け、赤高く舞い上がる気球(23日午前9時ごろ、山下僚撮影)

大気球の放球成功

宇宙機構 パラシュートも分離 実験2回目

大樹航空公園

【大樹】宇宙航空研究開発機構(JAXA)は23日午前6時から、大樹町多目的航空公園内の大樹航空宇宙実験場で、今年度2回目となる大気球の放球実験を行った。6月に実施した1回目は準備段階でロープが切れる不具合が発

生し、中止となったが、今回は放球に成功。関係者や町職員、見学の町民らが見守る中、重りを付けた気球が上空高く舞い上がった。

JAXAは今年度から大樹での大気球実験を開始。6月

球とパラシュートを切り離す部分の電気系統に異状が発生し、取りやめとなった。

今回の実験も6月と同じく科学的要素を盛り込まず、放球、管制、回収と一連の作業を確認する内容。この日は午前4時ごろから約40人のスタ

ッフが準備に当たり、格納庫内でポリエチレン製の気球にヘリウムガスを注入、直径15センチに膨らませた。

気球と、観測機器の代わりとなる370kgの重りをつないだ台車が、同格納庫から屋外に設置のレール上を毎分3分の速さで移動。同6時3分に合図とともに放球され、成功した。実験を見守った伏見悦夫町長は「これから大樹で多くの気球を上げてほしい」と喜んだ。

気球は上空で、体積10立方

膨張。同8時ごろに高度33・5mに到達し、同9時15分に気球と重り部分を切り離した。パラシュートが付いたら重りと気球は約30分後に、日高管内えりも町照野の沖合東側25mに着水。大気漁協(神山久典組合長)所属の2隻やJAXAの飛行機で回収作業に当たっている。作業終了は午後になる見通し。

放球後、報道陣の取材に応じたJAXAの吉田哲也大気球実験室長は「今回の実験の目的は放球から回収までの

(北雅貴)